

## ある高等学校の取組（S Cとの連携・家族の協力）

### 経緯

入学当初より遅刻が続き、母親からホームルーム担任に、子どもが学校に行きたがらないとの相談があった。ホームルーム担任からの相談を受け、教育相談部が、母親にスクールカウンセラーのカウンセリングを紹介する。

母親へのカウンセリングにより、家族関係が改善する。また、学校でも友人もでき、自分のペースで学校になじんでいくことができた。

ホームルーム担任から早期に相談があったこと、母親の困り感が強く、すぐにカウンセラーにつながることができたこと、カウンセラーの助言を家族全体で受け止め、家族も良い方に変化したことなどが、早期の回復につながった。

### 母親のカウンセリング1回目（5月）

母親によると本人は、中学校までは手のかからない子どもで、大変頑張っており、宿題や課題などは完璧にこなしていた。しかし、高校での授業のスピードについて行けず学校に行くのがつらいと話している。

また、父親と父方の祖父母の期待が大きく、本人は自分の思いを父親に伝えることができなかった。

カウンセラーの助言により、本人は入学前の課題が提出できておらず、負担を感じている様子であったので、各教科の担当者から時間がかかってもよいので、ゆっくり課題に取り組むように話をしてもらった。

母親に対して、父親に本人の思いを伝えられるようにすれば、との助言があった。

### 母親のカウンセリング2回目（6月）

中学時代とすっかり様子が変わってしまった息子にとまどいを感じている。

しかし、父親の態度が変化し、本人に歩み寄り、本人も歩み寄っている。共通の趣味である将棋が二人の関係改善の一助となっている。

週末には、家族みんなで旅行に出かけるまでに家族関係が改善した。

### 【教育相談部の取組】

母親のカウンセリングと並行して、学年主任に臨時の連絡会の開催を要請した。連絡会では、各教科の担当にも参加してもらい、本人が登校をしづる原因について協議し、本人に対する配慮をお願いした。各教科担任・ホームルーム担任を中心に課題の提出等について配慮した結果早期に回復することができた。